

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 国立大学法人 奈良教育大学 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒630-8528

奈良市高畑町 奈良教育大学

E-mail soumuka@nara-edu.ac.jp

Website <http://www.nara-edu.ac.jp/>

幼児児童生徒数 男子 597名 女子 739名 合計 1,336名

幼児・児童・生徒の年齢 18歳～24歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本学は、「持続可能な社会の創造に寄与しうる教育を推進するため、実践的指導力、自ら課題を発見し協働的に探求できる能力及びグローバルな視野を備え新たな学びに対応できる能力を身に付け、その向上を目指して常に学び続ける教員を養成する。」ことを大学の基本的な目標の一つに掲げ、研究・教育に努めている。具体的には、次世代教員養成センターESD・課題探求教育部門のESD・教材開発領域に近畿ESDコンソーシアムを位置づけ、ESDを核とした教員養成・研修の高度化を柱に、①学生を対象としたESDティーチャーの養成、②現職教員を対象としたESDティーチャー・ESDマスターを目指した研修、③社会教育施設との新たな連携、④各地のESDを支援する取組を行った。

### ① 学生を対象としたESDティーチャーの養成

平成27年度日本/ユネスコパートナーシップ事業で受託した、教員研修プログラムのあり方に関する調査研究結果を基盤に、ESD関連科目の履修、ESD実践、ESD演習による認証制度を創設し、今年度は新たに4名の学生をESDティーチャーに認証することが出来た。

## ② 現職教員を対象としたESDティーチャー・ESDマスターを目指した研修

上記の調査研究において、ESDに取り組む教員に求められる資質能力を「教員としての基盤的力量」「SDGsへの関心・理解」「地域での教材開発力」「単元デザイン力」であることを明らかにした。これに基づき、奈良及び和歌山県橋本市にESD連続セミナーを開催し、今年度新たに14名のESDマスター、12名のESDティーチャーを認証することが出来た。

## ③ 社会教育施設との新たな連携

奈良県立万葉文化館、川上村森と水の源流館と連携した授業づくりセミナーを各5回ずつ開催した。これまでのような施設見学を中心とした連携とは違い、学芸員による教材資料の提供、大学教員によるESD教材化支援、現職教員による授業実践と社会教育施設と大学の連携による現職教員の教材開発力、単元構想力、ESD授業実践力等の向上を目的とした研修を行った。

## ④ 各地のESDを支援する取組

野外活動は、体験的にESDを学ぶ場である。奈良市内の11の小学校の依頼を受け、キャンプファイヤー等の補助に教員志望の学生を派遣し支援した。また近畿地方ESD活動支援センターに協力し、教員フォーラムの開催や滋賀県長浜市、近江八幡市におけるESD推進事業に関わった。さらに、奈良市・和歌山県橋本市・三重県名張市・兵庫県猪名川町において校内研修に9回参加し、研修会を実施した他、大阪府枚方市、寝屋川市の教員研修会では、ESD環境教育をテーマとした研修講師を務めた。



① ESD実践・ESD子どもキャンプ



② 奈良でのESD連続セミナー



③ 森と水の源流館での授業づくりセミナー



④ 学生による野外活動支援

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(活動を企画し、運営する )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他( )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none"><li>・ SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS (国際連合広報センターウェブサイト)</li><li>・ 「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ</li><li>・ 「ユネスコスクールと持続可能な開発のための教育 (ESD)」 (日本ユネスコ国内委員会)</li><li>・ 新学習指導要領 (平成 29 年 3 月公示)</li><li>・ 「人はいかに学ぶか」(稲垣佳世子・波多野誼世夫、中央公論新社、1989 年)</li><li>・ 「SDGs と開発教育」(田中治彦、三宅隆史、湯本浩之著、学文社、2016 年)</li><li>・ 「農業と人間」(生源寺眞一、岩波書店、2013 年)</li><li>・ 「食卓から地球環境がみえる」(湯本貴和、地球研叢書、2008 年)</li><li>・ 「状況に埋め込まれた学習」(ジーン・レイブ、エティエンヌ・ウエンガー著、佐伯胖訳、産業図書株式会社、1993 年)</li><li>・ 「学びとは何か」(今井むつみ、岩波書店、2016 年)</li></ul>
---

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

全ての学年の学生を対象に ESD プログラム（ESD ティーチャー）を設けている。本プログラムは、「スタートアップ⇒プラクティス⇒グローバル」とステップアップし、最終的に「ESD ティーチャー」を授与している。スタートアップ・プログラムでは ESD 概論などの必修科目を、プラクティス・プログラムでは地域生態論などの選択必修科目を、またグローバル・プログラムではユネスコスクール推奨科目を履修することで、幅広く学び、空間的・時間的な視野を養成する。その他に授業外の学びである ESD 演習や ESD 実践、さらには現職教員と共に ESD 連続セミナーで学ぶことで、ESD 実践力の養成を目指している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本学の中期目標に「奈良の特色を生かした「持続可能な開発のための教育」などの教科横断的な教育研究領域などの充実に向けた教育課程の整備を行う。」と明記している。平成 29 年度概算要求（重点支援①）の戦略 2「現代の教育的課題に対するプロジェクトを組織し、その研究成果を発信・展開する」の取組 1に「ESD を核とした教員養成の高度化－教員養成・研修における ESD モデルプログラムの開発と普及－」を位置づけている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本学学生を対象とした教員養成については、次世代教員養成センター運営委員会で活動報告を踏まえた評価（内部評価）を実施している。教員研修や ESD 普及活動は、近畿 ESD コンソーシアムを組織して展開しており、年 2 回の連絡会議で意見徴収を行った。またコンソーシアム報告会のポスターセッションで構成団体以外の方々の意見をを得ることができ、ESD ティーチャープログラムを奈良・橋本以外でも展開する必要があることが明らかになった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

近畿 ESD コンソーシアムでは、ウェブサイトを立て上げ、積極的に情報発信を行っている。「ESD 活動日誌」として実施した事業内容や学生による活動支援を発信するだけでなく、「ESD について学ぶ」において、「学ぶ喜び・ESD 連続セミナー(全6回)」、奈良市 ESD 連続セミナー(全12回)、世界農業遺産勉強会(全6回)、ESD 構成主義研究会(全13回)、ESD 社会科理論研究会(全9回)のそれぞれについて概要報告を掲載し、研究成果を発信している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

近畿地方 ESD 活動支援センターの企画運営委員として、10月に開催された教員フォーラムに協力したほか、きんき環境館のアドバイザー委員として滋賀県長浜市・近江八幡市での ESD 推進事業に協力している。さらに奈良県公民館連絡協議会地域課題の解決を目指すモデル公民館等プロジェクトや歴史街道推進協議会との協働による、親子を対象とした ESD フィールドワークを企画・実施している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

12月に玉川大学で開催されたユネスコスクール玉川研修会、第4回ユネスコクラブ全国サミットに学生を派遣した。また、奈良ユネスコ青年部と合同合宿を行った。さらに、学生主体の ESD 実践勉強会を開催したり、広島大学ユネスコクラブと交流したりと、ユース・学生を中心とした交流・ネットワークの形成を行った。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

本学学生においては、本学の学生企画活動支援事業に自ら申請し、年3回のESD実践勉強会を開催するなど、能動的にESDを楽しく学ぼうとする態度が見られるようになった他、野外活動などを通じて児童との関わりが増えることで、教員になる意思が高まった。ESDセミナー等の現職教員を対象とした継続的な研修を実施した成果としては、セミナーで研修を積んだ若手教員が自らのESD授業実践を様々な研究大会で発信するようになってきている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

30年度は①ESDに関わる研究・教育、②現職教員を対象としたESDティーチャープログラムの拡大、③ESD活動支援の展開を計画している。主な活動は以下の通りである。

①ESDに関わる研究・教育

陸前高田市文化遺産調査を実施する。陸前高田市の社寺の文化遺産を調査することで歴史文化遺産を通じたESD教材の開発を行うと共に、被災地を見学したり、被災された方々と話したりすることで、防災・減災教育について考える機会とする。

また、社会教育施設と連携した授業づくりセミナーとして、新たに春日山原始林を教材としたESD環境教育を学ぶ場をつくる。

②現職教員を対象としたESDティーチャープログラムの拡大

既存のプログラムは継続的な5回の研修であるが、2泊3日の研修プログラムにパッケージ化し、要望があれば、全国どこでも開催することを計画している。

③ESD活動支援の展開

教員を目指す学生にとって、学校現場での学びは貴重である。野外活動などの学生主体の支援を継続する。また、学生中心の交流活動も引き続き支援する。近畿地方活動支援センターと連携し、近畿地方の学校以外でのESD実践に協力する。